

日タイ修好130周年記念特別展



仏の国の輝き

タイ仏教美術の熱風、
トーハクに



バンコク ワット・スタット 撮影 三好和義

今年(2017年)は日タイ修好130周年にあたります。この節目の年に修好記念事業として展覧会を開催します。タイでは、仏教は人々の暮らしに寄り添う大きな存在であり、長い歴史のなかで多様な仏教文化が花開きました。本展では仏教国タイについて、タイ族前史の古代国家、タイ黎明期のスコタイ朝、国際交易国家アユタヤー朝、現王朝のラタナコーシン朝における仏教美術の名品を通じて、同国の歴史と文化をご覧ください。また、日本とタイの交流史についても合わせて紹介します。

本展のみどころ



総作品数約 140 件。門外不出の名宝がトーハクに！

「ナーガ上の仏陀坐像」や「仏陀遊行像」など、日本初公開の名品に加えて、第一級王室寺院ワット・スタットの正面を飾っていた門外不出の大扉も来日。また、国内の貴重な作品も出品します。



タイ仏教の全貌をたどることができる、本格的なタイ展。

本展では、タイ族前史から現王朝のラタナコーシン朝まで、選りすぐりの名品によって、タイ仏教美術の全貌をたどります。東京国立博物館では実に30年ぶりのタイ展です。



日タイ修好 130 周年にふさわしい作品を紹介。

2017年、日本とタイは修好130周年を迎えます。本展では、江戸時代にシャム(タイ)へ派遣した朱印船を描いた衝立や、タイで作られた日本刀など、現在まで続く日本とタイの交流の歴史を示す作品を紹介します。



◆第1章◆ タイ前夜 古代の仏教世界

現在のタイの国土には、タイ族の国が興る以前、インド文明を取り入れながら、独自の文化を育んだ国々がありました。チャオプラヤー川流域のドヴァーラヴァティー国、スマトラからマレー半島に勢力を伸ばしたシュリーヴィジャヤ国、メコンデルタを中心に発展した扶南国に続くクメール族のアンコール朝、タイ北部に花開いたモン族のハリブンチャイ国。タイ文化が芽吹く土壌を形成した古代の多様な信仰の世界をたどります。



ほうりん
法輪

砂岩
スパンブリー県ウートン遺跡第11号仏塔跡
ドヴァーラヴァティー時代 7世紀
ウートン国立博物館

仏陀の教えの広まり

ドヴァーラヴァティーの人々は仏教を篤く信仰し、数多くの寺院が造営されました。寺院では仏像や仏塔、そして法輪が造られました。車輪が転がるように仏陀の教えが広まることを意味する法輪は、高い石柱の上に設置され、人々に信仰されました。仏教が普及した世界では、それぞれの国で仏像や仏塔を祀りましたが、ドヴァーラヴァティー国ほど法輪を数多く建立し信仰した国は他にありません。



じょう ぶつだざぞう
ナーガ上の仏陀坐像

青銅、金
スラートターニー県チャイヤ郡ワット・ウィアン伝来
シュリーヴィジャヤ様式 12世紀末～13世紀
バンコク国立博物館

クメール美術と融合した 精緻な美

悟を得た仏陀が瞑想をする間、竜王ムチリンダが傘となり、仏陀を雨風から守ったという説話に基づいてつくられた仏像です。東南アジアでは、水と関係する蛇の神ナーガをとっても大切にしており、このテーマの像もたいへん好まれました。本像は、シュリーヴィジャヤ国の重要な都市のひとつであるチャイヤの中心寺院に安置されていた仏像です。その精緻な作風には、12世紀後半頃に同地におよんだクメール美術の影響がうかがえます。



ざぞう
アルダナーリーシュヴァラ坐像

砂岩
ウボンラーチャターニー県
ブレ・アンコール時代 8～9世紀初
ウボンラーチャターニー国立博物館

ヒンドゥー神話の 両性具有神

タイの東北部では仏教の信仰と同時に、カンボジアのクメール族の影響でヒンドゥー教も信仰されました。アルダナーリーシュヴァラとは、ヒンドゥー教の男神シヴァとその妃パールヴァティが半身ずつ組み合わされて一体になったものです。この像は東北タイに勢力を伸ばしていたクメール文化の中でつくられた彫刻です。

◆ 第2章 ◆ スコータイ 幸福の生まれ出づる国

1238年にタイ族がひらいた王朝スコータイは、「幸福の生まれ出づる国」を意味します。スコータイはタイ中北部の広大な盆地を中心に開けた国で、水路と陸路で諸地域を結ぶ交通の要衝にありました。歴代の王はスリランカから受容した上座仏教を篤く信仰し、多くの寺院を建立しました。タイ族による仏教文化が花開き、タイの文字や文学が生み出されるなど、現在のタイ文化の基礎が築かれた時代です。



ぶつそくせき
仏足跡

青銅
カムベンベット県ワット・サデット伝来
スコータイ時代 15世紀
バンコク国立博物館



壮大な仏教の宇宙観をあらわす

仏足跡は、仏陀の存在を象徴するモチーフとして古代インド以来、信仰を集めてきました。タイではスコータイ時代にスリランカに残る仏足跡の写しを求めてこれを将来し、その後に仏足跡信仰が大いに発達しました。この作品は、仏教の宇宙観で世界の中心に聳える須弥山を中央に配し、その周りを吉祥文様を取り囲んでいます。上辺には遊行する仏たちが並び、右端や下辺には王や比丘たちの姿があります。

ぶつたざぞう
仏陀坐像

青銅、金
スコータイ県シーサッチャナーライ郡ワット・サワンカラム伝来
スコータイ時代 15世紀
サワンウォーラーナーヨーク国立博物館



あんない 来世の安寧を願って

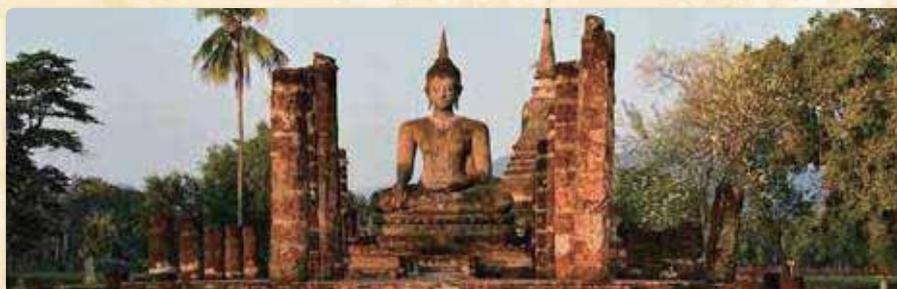
面長のお顔に穏やかな笑みを浮かべ、ゆったりと坐す仏陀像です。抑揚を抑えながらも張りのある体や、繊細な指先のつくりなど、スコータイ時代の特徴を顕著にしています。台座には、マハータンマラーチャー（サイルータイ王 在位1399-1419）の後の一人が、来世の安寧を願って寄進した仏像であることが記されています。

ぶつたゆぎょうぞう
仏陀遊行像

青銅
スコータイ県シーサッチャナーライ郡
ワット・サマンカラム伝来
スコータイ時代 14～15世紀
サワンウォーラーナーヨーク国立博物館

軽やかに歩む仏像

軽やかに片足を踏み出し、歩みを進める仏陀像。穏やかな笑みを浮かべる表情、しなやかで優美な姿にタイ人の美意識を見ることができます。仏陀の歩く姿は、亡くなった母のマーヤー夫人に説法するために三十三天に昇った仏陀が、地上へ降りてくる場面をあらわすとも考えられています。



スコータイ ワット・マハータート
撮影 三好和義

◆第3章◆ アユタヤー 輝ける交易の都

アユタヤーは14世紀半ばから400年もの長きにわたり国際交易国家として繁栄しました。アユタヤーの優位性は南シナ海の通商ルートと、ベンガル湾通商ルートという東西の巨大な市場を結ぶ接点に立地していた点にあります。国王は、アユタヤーの肥沃な大地の恵みや、北タイや東北タイの森林から河川によって運ばれる産物をもとに、日本、琉球などの東アジア国家や東南アジアの国々だけでなく、中東や西洋とも活発に貿易を行ない、莫大な富を蓄えた「大商人」でした。また、上座仏教を国教とする一方、王の権力と神聖さを高めるためのインド的な儀礼や位階制度が整えられるなど集権化が進みました。



金冠

金、貴石ほか

アユタヤー県ワット・ラーチャブーラナ遺跡仏塔地下出土

アユタヤー時代 15世紀初

チャオサムブラーヤ国立博物館

さんぜん 燦然と輝く王権の象徴

寺院の仏塔内部に設けられた「クル」という空間から発見された金冠。男性の髻に被せる冠で、王が持つべき5種の神器の筆頭に挙げられます。仏塔に王の神器を奉納するというのは、未来のダルマラージャ(仏法王)のためのもので、未来も正しい王によって仏法が守られ、国が栄え、安寧であることを願ったと考えられています。



金舍利塔

金

アユタヤー県ワット・ラーチャブーラナ遺跡仏塔地下出土

アユタヤー時代 15世紀初

チャオサムブラーヤ国立博物館

アユタヤー初期の仏塔の姿

スリランカ様式とインド北東部のパーラ様式が混交した仏塔形の舍利容器。仏塔内の奉納品で、ずっと立った円錐状の尖塔部分や優美な膨らみを帯びた覆鉢、基部にめぐらされた花文様など、洗練されたそのかたちは、現存しないアユタヤー初期の仏塔の姿を知る貴重な手がかりとなっています。



金象

金、貴石ほか

アユタヤー県ワット・ラーチャブーラナ遺跡仏塔地下出土

アユタヤー時代 15世紀初

チャオサムブラーヤ国立博物館

王の威厳を示す聖なる象

タイといえば象。タイの人々は長い間、象と深く関わりながら生活をしてきました。とりわけ、白象を得た国王は、人徳が高く人々から敬われる存在と信じられており、象は王の象徴でもありました。冠を被り、貴人が乗る豪華な輿を背に載せたこの象は、四肢を地につけて伏し、鼻を高くあげています。さながらそれは王国の繁栄を言祝ぐかのようです。



アユタヤー ワット・ブラーシーサムベット
撮影 三好和義

◆第4章◆ シヤム 日本人の見た南方の夢

シヤムとは、江戸時代から知られていたタイの呼称です。シヤム、つまり当時のアユタヤー朝は国際交易国家として栄え、16世紀末から17世紀にかけて日本からも新たな市場や活躍の場を南方に求めた朱印船貿易家たちが集い、日本人町が形成されました。それを遡る100年前には、すでに琉球を介して日本とシヤムの交流が始まっており、日本の対外交流史のなかでもシヤムとの交易はきわめて大きな位置を占めていました。彼らを駆り立てたのは、遠い異国へのあこがれだったかもしれません。



山田長政像

江戸～明治時代 19世紀 静岡浅間神社

山田長政(?-1630)は、駿河国出身と伝えます。シヤムに渡り、アユタヤーの日本人町や日本人義勇軍で活躍しましたが、政争のうちに毒殺されました。



すえよしせん ず ついたて 末吉船図衝立

板絵着色

江戸時代 1858年(安政5)

大阪・杭全神社

【展示期間】7月4日～7月30日

順風満帆、帰国の途へ

すえよしまごぞ えもんよしやす
末吉孫左衛門吉康(1570～1617)がシヤムへ派遣した朱印船(末吉船)が帰国する様子を描いた衝立。風にたなびく「末吉」や「順風」の旗のもと、酒を飲んだり囲碁を楽しむ人々が活写されています。1604年(慶長9)から1635年(寛永12)までの32年間で、朱印船の海外派遣数は実に356隻を数えます。このうち、大坂・平野の末吉孫左衛門は京都の角倉素庵に次いで多くの朱印船を派遣した商人として知られ、その船はシヤムで造られたとの言い伝えがあります。



(部分)

くどくえ ほうようず カティナ(功德衣)法要図

紙本着色

ラタナコーシン時代 1918年

タイ国立図書館

【展示期間】8月1日～8月27日

勇ましく行進する日本人義勇兵

アユタヤー朝の国王が、僧院へカティナ(功德衣)を献上に向かうさまを描いた行列図。象に乗ったシヤム人指揮官や外国兵とともに、行列の最後尾には薙刀を手に髪を剃り上げた日本人義勇兵が並びます。近隣諸国との長い戦争のなかで、アユタヤー朝には多くの傭兵が集まりました。日本人義勇軍の勇猛さは、アユタヤー朝年代記にも記されています。この写本の原因は、アユタヤーの僧院ワット・ヨムの壁画で、本品は1918年にラーマ5世の異母弟ダムロン親王の命によって手漉き紙に写し取られたもの。



ずいちろうじゅうからくさまんきん まはっかくぼこ 瑞鳥獣唐草文蒟醬八角箱

竹製漆塗

ランナータイ様式 16～17世紀

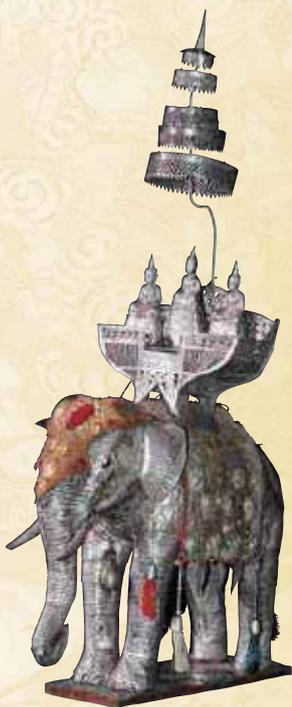
東京国立博物館

異国情緒あふれるタイ製漆器

タイの代表的な漆芸技法である蒟醬は、漆器の表面に文様を彫り、その凹部に色漆や顔料を充填して文様を表わす技法です。竹ひごを編んだ籃胎という器体に、唐草文を背景にしてガルーダやシンハーといった吉祥の鳥獣などを混然と表わす意匠が特色です。タイの蒟醬漆器はアユタヤーの日本人町を介した朱印船貿易によって日本に伝来し、茶道具として珍重されました。

◆第5章◆ ラタナコーシンインドラ神の宝蔵

ラタナコーシンとはインドラ神の宝蔵を意味します。その都(現バンコク)はクルンテープ(天人の都)と呼ばれてきました。タイ人はビルマ(ミャンマー)軍との戦いで灰燼に帰したアユタヤーの都を復元するように、ここに新しい都を築き、アユタヤーの芸術文化の復興に力を注ぎました。最終章ではラタナコーシン朝に集積されたタイの伝統美術とその展開を紹介します。



騎象仏陀三尊銀像

木胎、銀
ラムブーン県ワット・プラタートハリブンチャイ伝来
ランナータイ様式 20世紀
ハリブンチャイ国立博物館

白銀に輝く象の背に ならんで座る三体の仏像

薄い銀板を繋ぎ合わせて彫金を施して制作しています。装飾具を帯びて佇む象の背に鞍が置かれ、鞍上には三体の仏像がならんで座り、仏像には五層の傘蓋が差し掛けられています。各仏像には、仏法が未来5000年永続することを祈念する願文が記されています。なお、仏像・象・鞍は別々に作られて、後に合わせた可能性も指摘されています。騎象仏像はラタナコーシン時代になって行なわれた造形であり、「象に乗る勝利の仏」と称されます。

※傘蓋は作品の保護のため展示されません



ラーマ2世王作の大扉

木製、金、彩色
バンコク都ワット・スタット仏堂伝来
ラタナコーシン時代 19世紀
バンコク国立博物館

天界への入り口

5.6メートルを超えるこの大きな扉は、1807年に創建されたワット・スタットという第一級王室寺院の正面を飾っていたものです。国王ラーマ2世(在位1809-1824)が自ら精緻な彫刻をほどこしたと伝えており、王室とともに育まれたタイ文化を象徴する至宝といえます。チーク材の扉の表側には、天界の雪山に住むとされるさまざまな動物たちが重層的に表わされています。裏側には寺院を守る鬼神たちの姿が描かれます。この扉の完成後、ラーマ2世は他に同じような扉を作らせないように、使用した道具をすべてチャオプラヤー川に捨てさせた、という逸話が残っています。1959年の火災で一部が焼損を受け、その後処置を施せない状態でしたが、2013年から日タイで協力し、保存修理作業を進めてきました。



象鞍

木製漆塗、象牙、金
ラタナコーシン時代 18~19世紀
バンコク国立博物館

象に騎乗する際に用いる巨大な鞍

象に乗るための鞍は、馬のように跨るのではなく、象の背に座面を設けて座ります。象鞍の形式は、座面の周囲に欄干をめぐらせて前方を開き、座面の下には象の背に載せるための脚を付け、脚には座面を支える支柱が付きまます。本品は、約180センチの幅広い座面の周囲に象牙製の支柱をもつ欄干が設けられ、脚部からは流麗な支柱が伸びて座面を支え、器体全体に金箔が貼られています。

タイ王室と日本刀

タイと日本のつながりを象徴するもののひとつが日本刀です。タイにおける日本刀の受容はアユタヤー朝の16～17世紀に活発化したと考えられます。当時、戦国時代の終焉により、主君を失った多数の浪人がタイに渡来流入するようになりました。おりしも隣国ビルマ（ミャンマー）のタウングー朝との軍事的緊張状況にあったアユタヤー朝では、これら軍事経験の豊富な日本人浪人を「日本人義勇兵」という傭兵部隊として採用し、そのなかからは駿河出身の山田長政のようにアユタヤー朝において重く用いられる者もあらわれたのです。このような流れのなか、日本刀は正式な交易品として輸入されたもの以外にも、人の流れに沿う形で大量にタイ国内へもたらされたと思われます。以降、タイでは在来の伝統的な刀剣より格の高い刀剣として日本刀は扱われます。ところが、朱印船貿易の終息と、その後の江戸幕府の政策によって日本刀の輸入が途絶えてしまいました。その結果、日本よりもたらされた日本刀を模した日本式刀剣が製作されたのです。

日本式刀剣は現在のラタナコーシン朝においても重要な宝剣ととらえられており、国王の即位式ではタイ七宝製の外装に包まれた日本刀を佩用して威儀を正します。本展覧会では、これら日本式刀剣のうち、日本初公開となる上級貴族の佩用品だった純金製拵に包まれた日本刀と、タイ独自のニエロ製拵をもった日本刀を展示します。



きんぱんそうこしらえがたな
金板装拵刀
刀身：鉄 拵：木胎、金
ラタナコーシン時代 19世紀
バンコク国立博物館



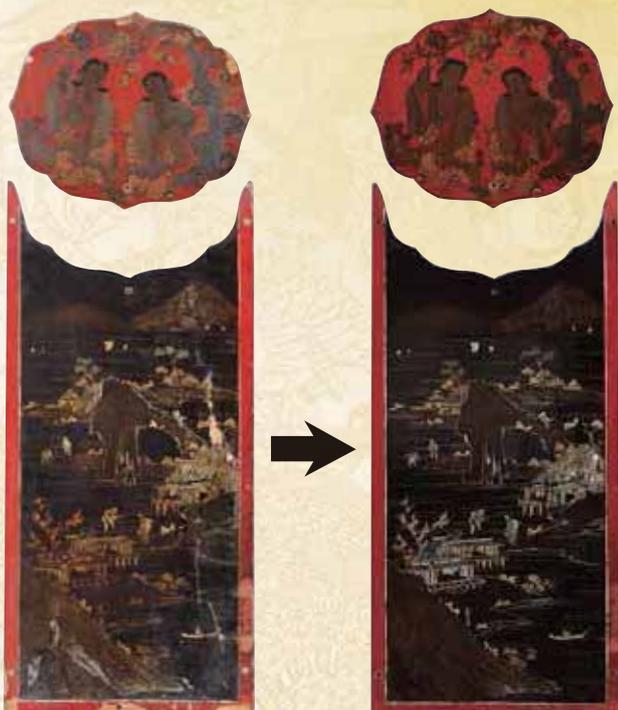
そうこしらえがたな
ニエロ装拵刀
刀身：鉄 拵：木胎、銀
鐔、柄：ラタナコーシン時代 19世紀
刀身：室町時代 16世紀
バンコク国立博物館

過去から現在、そして未来まで 日本とタイを結ぶ螺鈿の扉

ラーマ4世（在位 1851-1868）の発願^{ほつがん}によって1864年に建立された寺院、ワット・ラーチャプラディット。拝殿^{はいでん}の出入口や窓に設けられた観音扉の内側には、螺鈿および漆絵による装飾が施されています。扉の左右ともに画面は上下に区分され、その間に稜形の中区があります。上区には螺鈿による花鳥図、中区には漆絵による人物図、下区には螺鈿による日本風の山水風俗図があらわされています。

2013～2015年にはワット・ラーチャプラディットからの受託研究として東京文化財研究所による調査研究が行われました。螺鈿には貝の裏に伏彩色が施されており、江戸後期に製作された輸出漆器と同様の特徴が認められます。この扉がタイから日本に発注されたと記された古文書の記録が、扉の銘文、制作技法や材料から裏付けられ、制作の経緯についても明らかになりつつあります。

このたびは、その調査研究の際に修復された扉の部材を展示します。この事業を通じて、今後も日本とタイは文化財の保存修復について協力していきます。



(修理前)

(修理後)



拝殿内全景

花鳥山水螺鈿扉（部材）

木製漆塗、貝

江戸時代 19世紀

バンコク郡ワット・ラーチャプラディット



日本風のモチーフ（修理後）

タイといえばゾウ



土居利光園長

上野動物園土居園長さんに聞く ゾウでたどる日本とタイの関係

特別展「タイ～仏の国の輝き～」の会場、東京・上野で有名な場所といえば上野動物園。ゾウを通じた日本とタイの交流の歴史について、園長の土居利光さん、教育普及課の井内岳志さんに伺いました。



上野動物園に来た最初のゾウについて教えてください。

土居園長「明治21年にシャム（タイ）の国王から皇室に贈られたオスとメスのゾウが、当園に受け入れられました。これが、上野動物園に最初にやってきたゾウです。オスは大変な暴れゾウだったのですが、関東大震災のあと、浅草の花屋敷に移動され、58歳まで生きました。そのあと、昭和10年、シャム国少年団より、友好のしるしとして寄贈されたのが花子です。到着の翌日には、シャム国の大使を迎えての歓迎会が行われました。」

井内さん「訓練されたゾウだったので、いろいろな芸をやったみたいですよ。タイから一緒に来たゾウ使いに（上野動物園の）担当者が弟子入りをし、ゾウの訓練方法を教わったそうです。」

昨年、井の頭自然文化園で、69歳の高齢で亡くなったはな子（花子とは異なるゾウ）も、もとは上野動物園のゾウだったと聞きました。

土居園長「はい。終戦後、タイとインドから東京の子どもたちにゾウが贈られました。このうち、タイから贈られたゾウが、そのはな子です。2頭のゾウを東京から遠い地域の方々にも見てもらおうという話になって、移動動物園として、都内はもちろん、長野、新潟、東北、北海道を回ったんです。そのうち、ゾウは上野にも何頭がいるから、はな子は井の頭に移していただきたいという要望があったんです。昭和29年に井の頭自然文化園に移動し、日本最高齢を記録しました。その後もタイからゾウが贈られていて、最近では、平成14年に来たアティとウタイがいます。」

（公財）東京動物園協会提供



神戸港についたゾウの花子



ゾウの花子の綱引き

ゾウの近くには、タイのサーラータイ（あずまや）がありますよね。

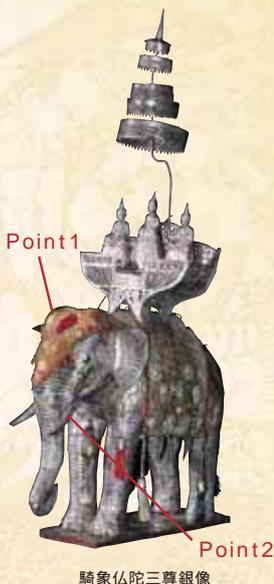
土居園長「サーラータイは、日本とタイの修好120周年を記念して、アティとウタイがいるゾウ舎の近くに建設されました。120年もの関係があることを、たくさんの人に知ってもらいたいという意図があったと思います。」

修好130周年を迎えて、特別な思いはありますか？

土居園長「平成27年に、ジャイアントパンダ国際交流シンポジウム『タイ王国のパンダと野生動物』を開催しました。修好130周年の今年は、ゾウに限らず、たくさんの動物の交流があるタイとさらに協力し合いたいですね。」

最後に、タイ展に出品される「騎象仏陀三尊銀像」についてどう思われますか？

土居園長「（作品の写真を見て）これ、カッコいいですね。ゾウの特徴がいちばん分かるのが頭の形と牙です。この天頂の部分が桃割れのようにになっているのはアジアゾウ（Point1）。アジアゾウだと、オスは牙が見えて、メスは外からは見えないので、これはオスですね。（Point2）」



騎象仏陀三尊銀像

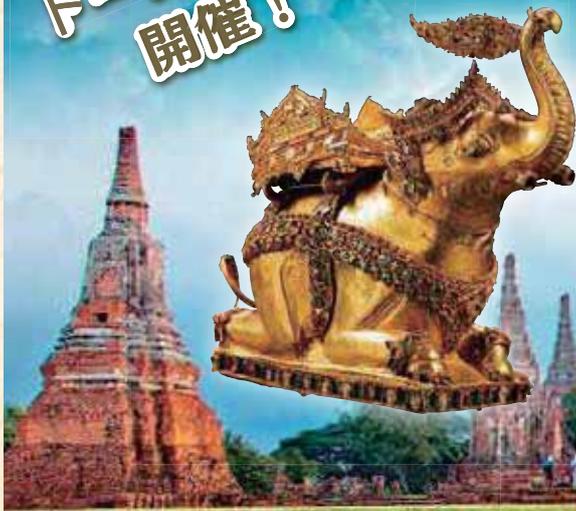
タイ展でゾウの作品を見たあとに、上野動物園で実物のゾウと比べるのも面白いかもしれません。タイとゆかりのある上野で開催するタイ展、ご期待ください！

東京都恩賜上野動物園

【開園時間】 9:30 ~ 17:00 入園は16:00まで 【休園日】 月曜日、年末年始 月曜日が祝日や振替休日、都民の日の場合はその翌日が休園日
【住所】 東京都台東区上野公園9-83 【公式ウェブサイト】 <http://www.tokyo-zoo.net/> 【お問合せ】 03-3828-5171

トークショー
開催!

みうらじゅんさん、
いとうせいこうさん、
タイ仏像大使就任!



みうらじゅんさん



いとうせいこうさん

仏像好きとして知られるみうらじゅんさん(イラストレーター)、
いとうせいこうさん(作家・クリエイター)が、タイ仏像大使に就任します。
監修グッズ、音声ガイド、トークショーなどにご登場いただきます。
最新情報は、本展情報サイトで随時ご案内します。どうぞお楽しみに!

背景写真提供 タイ国政府観光庁

イベント情報

タイ仏像大使
みうらじゅんさん & いとうせいこうさんトークショー
2017年7月7日(金)18時30分開演(予定)

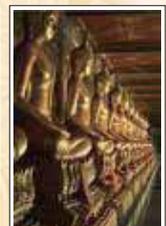
会場:東京国立博物館 平成館大講堂

この他に、体験講座「タイ舞踊を踊ろう(仮題)」、タイ料理を学ぶワーク
ショップ(館外にて実施)など、タイ文化に親しむイベントの開催を予定して
います。詳細は追って情報サイトでご案内します。

オリジナルグッズ

タイ仏像大使・みうらじゅんさん、いとうせいこうさんが開発するオリジナルグッズのほか、写真家・三好
和義さん撮り下ろしのタイ仏像クリアファイルやポストカード、本展オリジナル「マイペンライ カレー」、
タイで人気の曜日占いにちなんだブレスレットなど、タイらしさ満載のグッズを販売予定です。
ご期待ください。

タイ語で問題ない、大丈夫、どうにかなる の意。おおらかなタイの国民性を象徴するポジティブワード。



日タイ修好130周年記念特別展
タイ～仏の国の輝き～
 開催概要

- [会 場] 東京国立博物館 平成館
 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
- [会 期] 2017年7月4日(火)～8月27日(日)
- [休 館 日] 月曜日(ただし、7月17日(月・祝)、8月14日(月)は開館、7月18日(火)は閉館)
- [開館時間] 9:30～17:00
 金曜日と土曜日は20:00まで 日曜日と7月17日(月・祝)は18:00まで
 入館は閉館の30分前まで
- [主 催] 東京国立博物館、タイ王国文化省芸術局、日本経済新聞社、BSジャパン
- [共 催] 国際交流基金アジアセンター
- [協 賛] NEC、花王、スターツグループ、ダイキン工業、大日本印刷、東レ、トヨタ自動車、三菱商事
- [協 力] 日本貨物航空
- [後 援] タイ王国大使館、タイ国政府観光庁

[館 覧 料] (消費税込)	当日	前売	団体
一 般	1,600円	1,400円	1,300円
大学生	1,200円	1,000円	900円
高校生	900円	700円	600円

中学生以下は無料
 団体は20名以上
 障がい者とその介護者各1名は無料です。
 入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。

前売券

販売期間 2017年4月8日(土)～7月3日(月)

販売場所 東京国立博物館正面チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで) 本展情報サイト、
 ほか主要プレイガイド、コンビニエンスストアで販売します。詳細は追って情報サイトでご案内します。

先行スペシャルチケット

販売期間 2017年4月8日(土)～7月3日(月)

タイ仏像大使 みうらじゅんさん&いとうせいこうさんトークショー観覧券付チケット
 2,000円(税込) [販売場所] イープラス

本展オリジナル「マイペンライカラー」引換券付チケット

1,800円(税込) [販売場所] 展覧会情報サイト、イープラス、チケットぴあ、ローソンチケット、セブン-イレブン

いずれも詳細は追って情報サイトでご案内します。

- [お問合せ] 03-5777-8600(ハローダイヤル)
- [本展情報サイト] <http://www.nikkei-events.jp/art/thailand/>
- [instagram] kagayaki_thai2017
- [東京国立博物館ウェブサイト] <http://www.tnm.jp/>

- [報道関係お問合せ先] (ウイングダム内)
 特別展「タイ～仏の国の輝き～」広報事務局
 担当：妹尾、沼澤
 TEL：03-5642-3765 FAX：03-3664-3833
 E-mail：thailand@windam.co.jp
 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9ヤマナシビル4F